

NISHIKAWA SATOSHI EXHIBITION
ANOTHER CRAFT



西川聡展 もうひとつの工芸

2019年11月9日(土)ー17(日) 会期中無休 作家在廊日 11月10日(日)

GALLERY

うつわノート

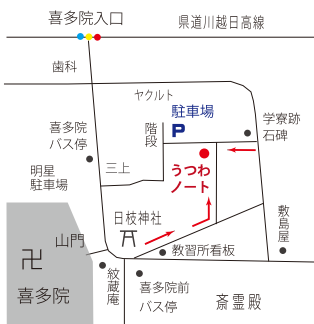
料金後納
ゆうメール

西川聡展 もうひとつの工芸
二〇一九年十一月九日(土)ー十七日(日) 会期中無休
営業時間 十一時ー十八時 作家在廊日 十一月十日(日)



神奈川県湯河原町の西川聡さん、弊店で初の個展です。西川さんは彩土や陶胎漆による赤色や黒色の大地を感じるプリミティブな器を作ることで知られていますが、その背景には若い頃に旅をしたアフリカ・中東・インド等の影響があると言われます。お聞きすると、それは直接的な形状や技法の引用というよりも、旅の端々で目にした景色・暮らし・生活の工夫など、土地ごとの根底にある生きるたくましさに通じているようです。さらに興味深かったのは、作家として独立してから暫くは、依頼される仕事は何でもやったというお話でした。結婚式の引き出物、スーパーレジ横での展示、声を掛けられれば断ることなく細々とした事でも対応していたそうです。その過程で少しずつ自分のやりたいものを織り交ぜてテーマを課していったことが今に繋がっているという事でした。西川さんが美大を卒業した頃は今のように陶芸家として誰もが生活できる時代ではなく、特に産地や伝統の背景のない若い作家はクラフト系のデザインの道を歩むか、前衛的なアート作品を目指し公募展で賞歴を重ねるといった選択が主でした。西川さんの作ってきた器には、そういう時代を経て自らの工夫で培ってきたスタイルがあります。従来の近代工芸の伝統技法や茶道具を至上とするのではなく、クラフトから異形発展した独自性の確立でした。今までの時代と隔離し、オブジェも花器も食器も境目なく作る。今でこそ当たり前のようですが、西川さんはじめ、その周辺に90年代に生活工芸とはまた違った動向があり、今のうつつわ時代と繋がっていることは再確認しておくべきでしょう。今は大学で教育者の立場にも身を置きながら作家活動を続けていますが、既に市場が確立した中でデビューする若い作家にも西川さんが経験してきた混沌とした時代でこだわり続けてきたもの、打たれ強く生き残ってきたこと、そういう精神性もぜひ引き継いで欲しいと思っています。

店主



ギャラリー うつつわノート

埼玉県川越市小仙波町1-7-6
TEL 049-298-8715
MAIL utsuwanote@gmail.com

電車：川越駅(東武東上線・JR)より徒歩25分
本川越駅(西武新宿線)より徒歩20分
バス：駅東口3番乗場 [小江戸名所めぐり]～[喜多院前]
駅西口2番乗場 [小江戸巡回バス]～[喜多院]
車：ギャラリー専用の駐車場は北側(5～8番)

1967年 愛知県生まれ
1990年 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科陶芸卒
1991年より個展中心に活動
1995年 西アフリカに海外研修
1997年 アフリカ 中近東 西欧放浪
1998年 東京・国分寺で活動
2000年 東京・羽村で活動
2004年 神奈川県湯河原町へ工房移転
2013年 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科教授着任
2019年 現在、湯河原町で製作